

専門部会第二次研究協議会(2017年10月13日)の様子

各ブロックの授業の概要(記録)と、分科会の要旨を掲載しています。今後発行される紀要「石狩の教育に掲載予定の原稿をもとにしています。

二次研究協議会で部会員の皆様からいただいたアンケートの集約結果と部会の「見解」については、部会報「はまなす」(12月上旬までに発行)に掲載されますので、そちらをご覧ください。

各ブロックの授業公開&分科会(1)の様子

★低学年ブロック★

1年生 教材名「はたらく じどう車」

授業者：鎌田 響子 教諭 (石狩市立花川小学校)

本時の目標：班で相談し、乗り物の「やくわり」と「つくり」を接続語「ですから」を正しく使って、順序よく説明文を書く。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. (前時までの振り返り)「やくわり」と「つくり」を考えたことを確認する。	○「やくわり」と「つくり」の出でくる順番に気をつけて読みましょう。	ワークシートを配布
展開	2. 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ②はんで、やくわりとつくりをかながえて、のりもののせつめいをかこう。 </div> 3. 書く順番を確認する。 ・「やくわり」→「つくり」 4. つなぐ言葉「ですから」を確認する。 5. 1人ずつ考えた「やくわり」と「つくり」を出し合い、どれが良いか話し合っ、班で説明文を1つ作る。 6. 完成した説明文を、班ごとに発表する。	○(課題を提示する。) ○「やくわり」と「つくり」、先に書くのはどちらですか。 ○「やくわり」と「つくり」をつなぐ大切な言葉は何ですか。 ○「やくわり」と「つくり」を「ですから」でつないで、説明文を書きましょう。 ○「やくわり」と「つくり」のつながりを考えながら聞きましょう。	
まとめ	7. まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「やくわり」と「つくり」を「ですから」でつなぐと、わかりやすい。 </div>	○(本時の学習活動をまとめる。)	



つなぐ言葉「ですから」を確認する。



完成した説明文は、大きなワークシートに記入して掲示・発表。

○協議内容および成果と課題(低学年)



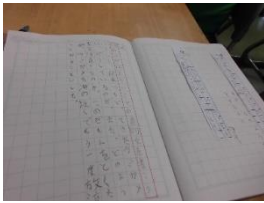
- ・つなぐ言葉「ですから」をはさんで、「やくわり」と「つくり」を入れ替えるチェック法は有効だった。子どもたちは、つながりが妥当であることを感覚的にとらえていた。
- ・ワークシートの並び替えは子どもの思考を整理する。
- ・今後の学習の基礎となる、段落意識や語彙の習得など、1年生のうちから身に付けさせるための指導の工夫が大切。

★中学年ブロック★

4年生 教材名「ウミガメの命をつなぐ」

授業者：菅野 清徳 教諭（石狩市立双葉小学校）

本時の目標：形式段落の要点をもとに、伝えたいことを要約文にまとめる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. 前時の活動を振り返る。 2. 自分の興味を持った部分について振り返り、話題に沿って選んだ形式段落の要点を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ①自分が伝えたいことの要約文を書こう。 </div>	○自分で選んだ話題は何でしたか。 ○その話題に必要な形式段落はどれでしたか。	形式段落の要点を短冊化したものを使用する。 
展開	3. 選んだ形式段落を「つなぐ技」を使って要約文にまとめる。 4. グループで自分の要約文を発表し、自分の要約文を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 要約文を交流することで修正するポイントをつかんだ。 </div>	○「つなぐ技」について説明をする。 ○同じ話題で要約文を書くグループを作り、作業をさせる。	
まとめ	5. 代表者が要約文を発表し、どこを工夫しているか考える。 6. 次回は自分の要約文がさらに伝わりやすいものになるように、図や表を用いてリーフレットにまとめていくことを確認する。 	○この要約文の工夫しているところはどこだと思いますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 短冊化したものをもとにつなぐ技を使って文章化 </div>	書画カメラを使って要約文の発表をさせる。

○協議内容および成果と課題（中学年）



- 形式段落の要点を短冊化し、自分の書きたい場面を選択することは要約文を書くうえで有効な手立てであった。
- 「つなぐ技」（①「つなぐ言葉を足す」 ②「足りない言葉を足す」 ③「別の言葉に言い換える」）は児童にわかりやすく、書く手段としては有効であった。
- 要点は、字数制限をかけていたが、要約も字数制限をかけた方がよかった。
- 「つなぐ技」を活用できないと要点の丸写しになってしまうので、活用させるための手立てをより工夫していくとよかった。

★高学年ブロック★

5年生 教材名「世界遺産白神山地からの提言～意見文を書こう」

授業者：鹿島 美穂子 教諭（石狩市立南線小学校）

本時の目標：資料から読み取った事実を根拠にして自分の自然保護に対する考えを書くことができる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. 前時の復習をする。	○前時にまとめたものを提示して想起させる。	
展開	2. 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 課 根拠を明らかにして、自然保護に対する自分の考えをまとめよう。 </div>	○課題を提示する。	意見カード配付
	3. 立場の確認をする。 4. 意見カードの書き方を知る。 5. 意見カードを記入する。 6. 友達の考えを知る。 	○今自分は、立場メーターのどこにいるのかを挙手で確認する。 ○意見カードの説明をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「根拠」と「考え」が必要なことを確認する。 </div>  ○考えが浮かばない児童を支援する。 ○書き終わった児童から、他の児童の意見を見に行かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 他の児童の意見を読んだら、「とても似ている」「少し似ている」「全然違う」をシールの色で分類して、相手の意見カードに貼る。 </div>	
まとめ	7. 全体で交流する。	○多様な考えがあってよいので、討議にならないようにする。	

○協議内容および成果と課題（高学年）

- ・児童の実態に合わせて、事実・資料・筆者の考えなどを丁寧に読み取った。自分の立場を明らかにしたり、意欲的に書いたりすることにつながった。
- ・意見カードの書き方を提示して、意見文に「根拠」と「考え」を入れさせる方法は有効だった。
- ・意見カードの交流の時、「とても似ている」「少し似ている」「全然違う」と、色分けしてシールを貼ることにした。児童の意欲を高める上で有効だが、シールを貼ってもらった側がそれをどう活用していくかを明確にするべきだった。

分科会(2)での協議内容(概要)

低学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○読み取りを助ける手立てとして、「やくわり」「つくり」「つなぐ言葉」を強く意識して指導してきたことが、読み取りを助ける有効な手立てとなった。(恵庭)○教科書と異なる資料をあえて提示することで、本来のはたらきができないことに気づく子が多く、「やくわり」「つくり」をしっかりと確認することができた。(江別)○各段落の本文を3つに分け、順番を並べ替える活動は、文どうしのつながりや全体の構成、「やくわり」「つくり」の部分を意識させるのに有効だった。(北広島)○文章構成を表にし、それぞれの自動車に合うよう正しくカードを並び替えていくペアでの活動は、子どもの思考を深めるのに有効だった。(千歳) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●具体物を見せるなどの工夫は内容の理解には有効だが、最終的に本文に立ち返ることが大切。
中学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○形式段落ごとに作成した「要約カード」は、ウミガメの紹介文作成の手立てとして有効であった。(恵庭)○本文のみを1枚にまとめ、全体を俯瞰して見えるようにしたことと、「ウミガメに関わる学芸員」という視点で紹介文を作成したことは本単元の学習に有効な手立てであった。(当別・新篠津)○各段落の視点が意識できるようワークシートの形式を工夫したことで、どの子も時間内に、段落のつながりを意識した絵文字の紹介文を書くことができた。(千歳)○ワークシートに「はじめ」「中」「終わり」と区切って書くことで作業内容が明確になり、時間内に絵文字を紹介する作文を書き上げ、交流する時間も確保することができた。(北広島)○説明文の文章構成や段落のつながりを「めだか」と「くらしと絵文字」で繰り返し指導してきたことで、次第に意識できるようになった。(江別) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●限られた時数の中で、どのように教材を読み取り、書く活動へとつなげていくべきか。
高学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○オリジナルの説明文を作成して、身近なものを題材としたことで、児童が意見文に取り組みやすくなった。(恵庭)○ワークシートを活用したことで、学習の流れが整理でき、意見交流がしやすくなった。(千歳)○文章を書くことが得意な子が多いということで、5年生で要旨を扱った。児童の実態に合わせて身につけさせたい表現のスキルを選択することは有効である。(江別)○要旨を書く手がかりとして、未完成な要旨を提示することで、要旨にまとめるのに必要なことに気付かせた。(北広島) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●活発な話し合いを行うために日頃からどのような活動を行うべきか。●単に書くだけでなく、児童自らが推敲する力をいかに身につけさせるかが今後の課題。